

イソブキ便り  
No.16



明けまして  
おめでとつございます。  
今年もよろしく  
お願いいたします。

昨年中は大変お世話になり、ありがとうございました。

県議選落選から三回目の春を迎えようとしています。これまで、多くの方と話をさせていただき、励ましの言葉をもらったり、時に厳しい意見もうかがいました。

この三年は、私にとって貴重な三年となりました。

私は絵本の読み聞かせをライフワークとしていますが、その際によく読むのが『三ねんねたろう』という本です。これは、凶作に悩む農家の若者が引きこもりになってしまう物語ですが、やがて先頭に立って農業用水の造成に取り組みます。

この三年間、私は「東伊豆ふるさと大学」を立ち上げ、静岡県への支援を得ながらまちづくりを進めてきました。また、移住体験ツアーを組んで多くの人に地域の魅力を知ってもらいました。

今年は私にとってとても大切な年です。引き続きご指導、ご声援をよろしくお願い申し上げます。

平成三十年一月三十一日

須佐 衛

## 災害ボランティア養成講座を開設

賀茂地区の災害ボランティアコーディネーター養成講座が開かれました。座学から始まりHUGという避難所運営ゲームもを行いました。二日目は、実際に災害ボランティア本部の立ち上げ訓練を行って、緊張感のある二日間を過ごしました。



避難所運営ゲーム (HUG) は、災害時に次々起こる事柄を 250 枚のカルタにして読み上げ、図面上で対応を訓練するものです。

ここ数日、各地で規模の大きな地震が発生しています。東海・南海東・南海の三連動地震が必ず来ます。迷わず備えることが大

切です。災ボラは全国から来ていただけるボランティアに気持ちよく動いてもらうために必要です。

1/14、15

## 稲取漁港に直売所の建設案

稲取漁協に建設が予定される 直売所の説明会に行ってきました。私は直売所の建設に賛成しています。観光客もやはり地元で採れたものをじかに買いたいという気持ちが強いです。この施設ができれば地域の賑わい創出の核ができると思います。

その上で、このままでは素直に賛成できない点がいくつかあります。まず、町長が任せられる運営母体が漁協や農協という点。このことは今の町の実態を映しているようで残念

です。今回の指定管理者も3年後には見直されるのでしょうから、NPOなりの法人を町が育て運営に当たってほしいと感じました。このことは議会ですべて再

をかぶった時、建物もそうですが、駐車した車が漂流し被害が拡大するという点、地域住民と同様に観光客へも非難告知の徹底が必要でしょう。役場の立体駐車場を非難タワーとして代用することも考えるべきだと感じます。

と言ったのも役所というのは一部の奉仕者ではなく全体の奉仕者です。そして、公のお金、とりわけふるさと納税を使っていることに關して慎重でなければなりません。二次加工品なども含め、私はすべての生産者が等しく出品できる形が理想だと思っています。町が漁協や農協という企業のためにお膳立てをするのはいかなるものかと思っています。

東日本大震災が起きて3カ月たったころ気仙沼に行きました。そのとき壊滅的な被害を受けていた直売所が、半年後に行ったときには営業を再開し賑わいの核になっています。そのことも記しておきます。 (1/16)

東伊豆町には大川をはじめ稲取・北川など、石丁場が点在しています。私有地が多い中、ここ本林石丁場は町有地になっており活用が期待されています。参加者してくれた13名からは口々に「もっと活用してほしい」「整備して観光の目玉に」役場がもっと主導的になって世に出してほしい」学芸員を置いて研究してほしい」などの意見や期待の声を聞きました。 (1/28)



東伊豆町津波危険マップ  
役場周辺が津波危険地域になっています。駐車場問題が深刻ですが、駐車した車が津波で流れ被害が拡大するなど、命の問題が急務です。

## 古道と石丁場を散策 新春ウォーキング

東伊豆ふるさと大学のイベントを開催しました。稲取から河津に向かって早春の古道を歩き、梅の香や寒椿の美しさに魅了されながら本林(ほんばやし)石丁場まで歩きました。石丁場では刻印のある築城石を観察しました。

須佐まもる後援会では皆さまからのご意見をお待ちしております。お気軽にお申し付けください。 Tel&Fax 23-3501